

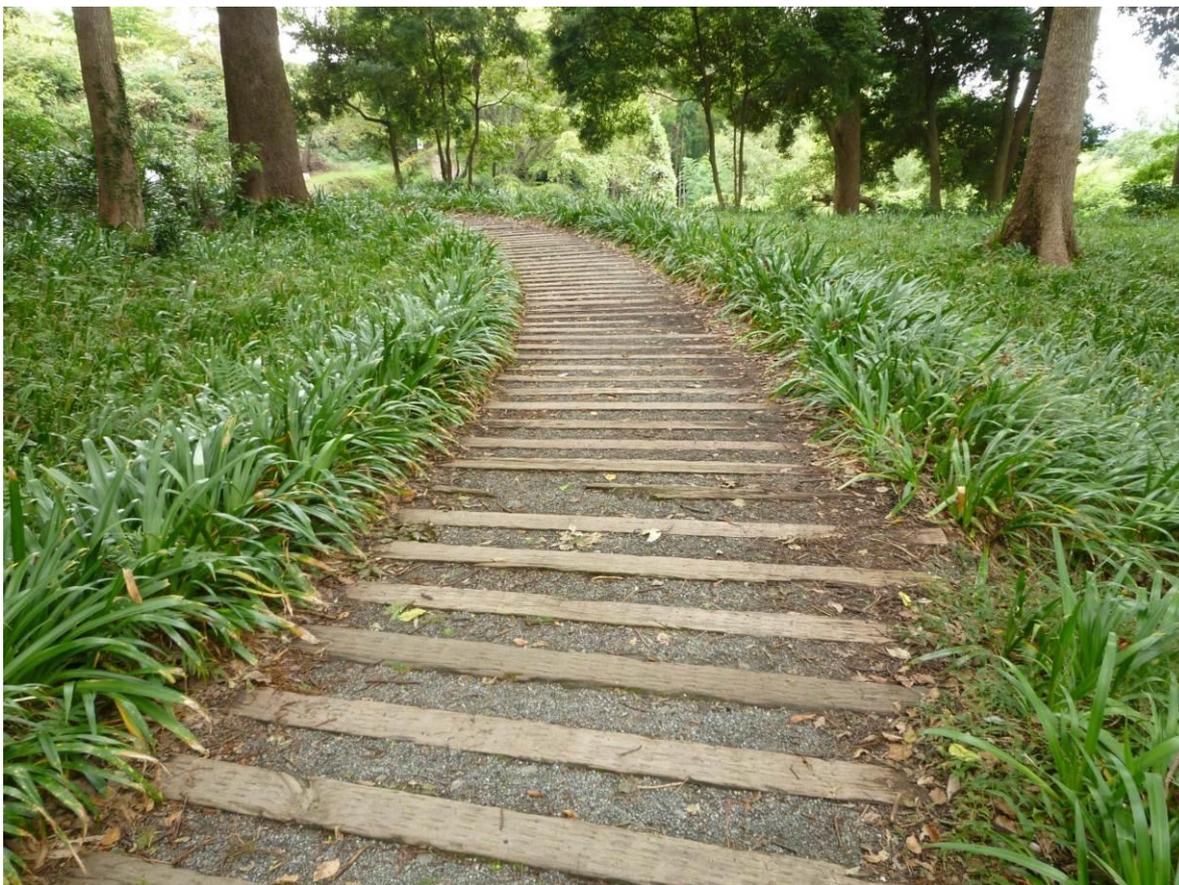
○鎌倉の大仏・・・津波等で建物を消失



○参道・・・鶴岡八幡宮参道（両側に車道を配置：参道より低い）



○木製階段（石垣山）



○樹脂製階段（鉄塔管理歩道）



○林道横断溝・・・ゴム板を利用



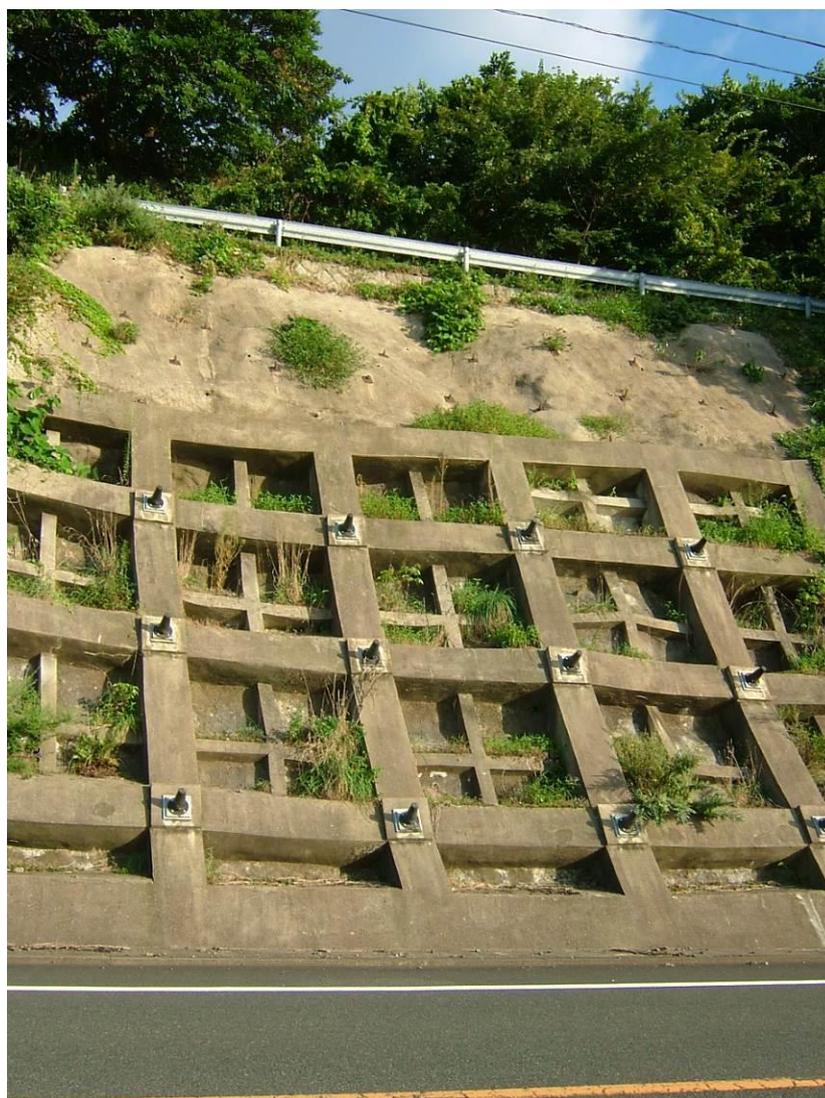
○近年見掛けなくなった井桁ブロック・・・数十年経過するが、ほとんど変状なし



○川砂利仕様



○二重断面枠



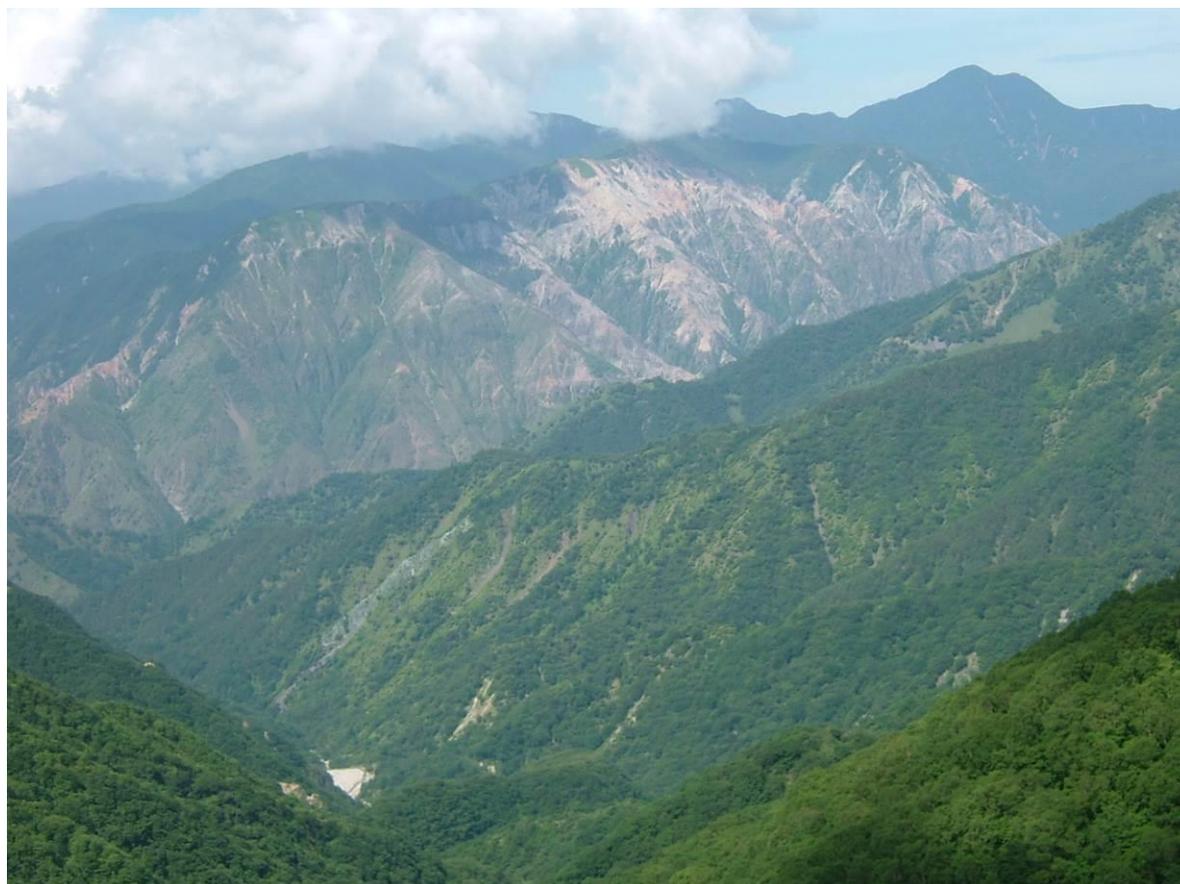
○石積の補強



○男体山・・・着工より 60 年以上経過。鳥取県大山でも、浸食がなかなか収まらないようであり、発想の転換が必要か？



○足尾銅山の緑化状況・・・復旧事業に本格的に着手（昭和 31 年）してから約 60 年経過



○日本最古のコンクリート電柱(函館)・・・昔のコンクリート構造物の方が良質のように思われる.だとすれば,一つの要因として,近年のものは養生が不十分(≒現場原価削減のため,手間暇かけない)といったことが考えられる.

